

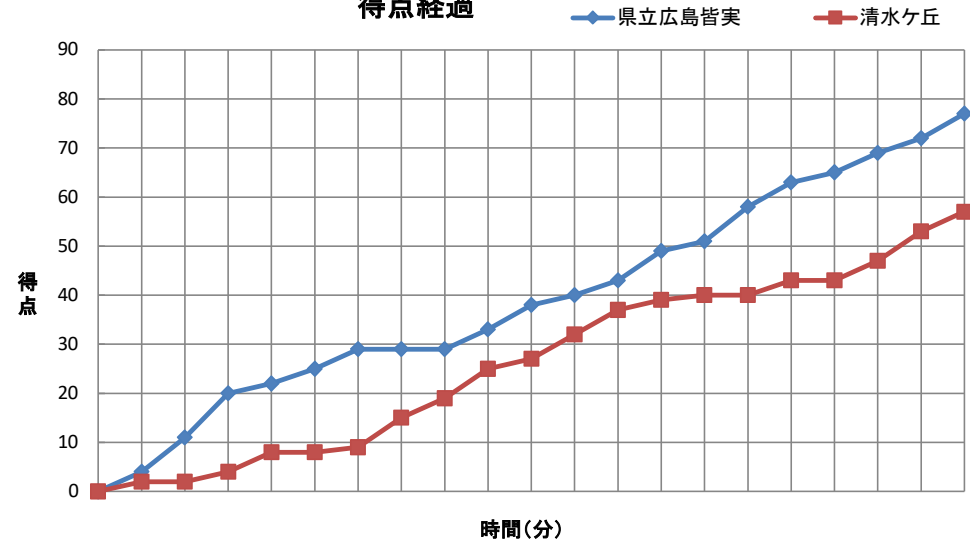
第79回広島県高等学校総合体育大会 バasketボールの部



ゲームレポート

女子		令和8年6月7日 12:30 開始											
決勝		広島県立総合体育館 K											
◎ 県立広島皆実 (広島県) 77		57 清水ケ丘 (広島県)											
		25	-	8									
		13	-	19									
		20	-	13									
		19	-	17									
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	藤井 美友	20	3	5	1	2	2	下青木 菜愛	6	0	2	2	4
* 5	池田 悠莉	22	1	9	1	3	* 3	大原 奏愛	3	0	1	1	2
* 6	平 妃奈乃	9	0	4	1	3	4	林田 姫波	-	-	-	-	-
* 7	木村 夢愛	11	1	4	0	3	5	山根 咲笑	8	0	1	6	3
8	丸山 桃奈	0	0	0	0	1	9	川 畑 恵	0	0	0	0	1
9	實藤 千陽菜	0	0	0	0	1	11	山本 小桜	2	0	0	2	0
10	愛洲 瑞絆	4	1	0	1	4	13	盆子原 美心	-	-	-	-	-
* 11	横川 柚季	8	0	4	0	1	* 17	玉守 朱鯉	9	0	3	3	3
12	宮本 咲英	2	0	1	0	0	* 19	平川 沙蘭	12	3	0	3	0
13	三宅 清良	1	0	0	1	0	21	川原 希海	0	0	0	0	0
14	濱田 藍	-	-	-	-	-	* 24	永川 里桜	13	1	5	0	1
15	上村 陽咲	-	-	-	-	-	* 28	木村 美咲	4	0	2	0	0
16	廣野 花香	0	0	0	0	1	64	照屋 柚凪	-	-	-	-	-
17	中居 仁衣菜	-	-	-	-	-	72	山本 絆	-	-	-	-	-
18	山田 あさひ	-	-	-	-	-							
コーチ	佐々井 雄大					0	コーチ	小原 健太					0
Aコーチ	大瀬 元貴						Aコーチ	大久保 忠雅					
合計		77	6	27	5	19	合計		57	4	14	17	14
主審: 森原 隆													
副審: 三島 彩													
副審: 山本 海士													

得点経過



CTO	1・2P		3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	13:25	19:51	36:57	:	:	:	:	:
TeamB	3:30	19:39	24:17	33:46	:	:	:	:

【戦評】  
 スタート 広島皆実#4 #5 #6 #7 #11 清水ケ丘#3 #17 #19 #24 #28  
 1Q 第79回広島県高等学校総合体育大会Basketボールの部女子決勝の対戦カードは、3年ぶり25回目の優勝を目指す広島皆実と、62年ぶりに優勝を狙う清水ケ丘となった。  
 この試合、最初にゴールを決めたのは広島皆実。ディフェンスのトラップから相手のターンオーバーを誘い広島皆実連続得点を決めていく。さらに#5が3Pを決め、9対2と広島皆実が7点リードしたところで、清水ケ丘ベンチは早めのタイムアウト。タイムアウト明けも、なかなかリズムが掴めない清水ケ丘。広島皆実積極的にディフェンスをしかけ、清水ケ丘は得意の3Pを良いリズムでは打たせてもらえない。清水ケ丘がリズムに乗れない間に、広島皆実ハーフコートオフェンスで確実に得点を重ねていき、25対8で1Q終了。  
 2Q 立ち上がり、ミスが断ち切れない清水ケ丘。積極的にシュートを狙い始めるも、広島皆実がリバウンドを拾い、主導権を渡さない。広島皆実#4は華麗なパスを見せ会場をさらに沸かせる。対する清水ケ丘、苦しい展開が続いているように思われたが、#2がスティールから得点し、攻撃が動き始める。#24の力強いポストプレー、#19の気迫あるルーズボールが得点につながり、流れを掴み始める清水ケ丘。勢いが出てきた清水ケ丘のチームディフェンスもはまり、徐々に点差をつめていく。しかし広島皆実も#4がここぞという場面で3Pを2本連続で決め、自分たちのペースを握り続け38対27で2Q終了。  
 3Q 後半、清水ケ丘のルーズボールとリバウンドが繋がり、流れが清水ケ丘に傾き始める。持ち味である3Pも、#24と#19が連続で決め一気に3点差まで詰める。しかし、広島皆実もハードなディフェンスからミスを誘い、簡単には勢いに乗せない。広島皆実#4と#11が余裕あるコンビネーションを見せ、これも得点に繋げる。3Q終盤、一進一退の攻防が続く。均衡を破ったのは、広島皆実のリバウンドからのブレイク。これが連続得点となり、58対40とリードを広げ3Qが終了する。  
 4Q 点差を縮めていきたい清水ケ丘は、#19のディープスリーで得点するも、その後のゴールが続かずなかなか点差は縮まらない。広島皆実も#6の粘りあるリバウンドや、#5の安定したドライブで着実に点差を広げていく。これ以上は引き離されたくない清水ケ丘は65対45でタイムアウト。タイムアウト明けも、広島皆実も落ち着いたパス回しでゲームをコントロールし、相手にリズムを作させない。その後も最後まで集中力を切らすことなく77対57で広島皆実が勝利を手にした。  
 清水ケ丘は、敗れはしたものの最後まで粘り強い戦いを見せてくれた。優勝した広島皆実も7月に大阪府で行われる全国総体での活躍を期待したい。

戦評: 畷本 奈穂

【R8県総体】女子決勝ゲームレポート